

群 教 セ	F08 - 01
	平27.257集
	生徒指導

# 他者への理解を深める家庭科指導

—コミュニケーション能力を高める

グループ学習の工夫を通して—

特別研修員 栗原 真紀子

## I 研究テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領における教科「家庭」の目標では「家族・家庭の意義，家族・家庭と社会のかかわりについて理解させる」ことを掲げ、生活の自立とともに互いに支え合っていること、自分や周囲の人々をより深く理解できる豊かな心や社会性を育てることを重視している。また、「平成27年度県立学校教育指導の重点」では、「自他を大切に作る心」や「良好な人間関係を築く力」の育成を目指している。

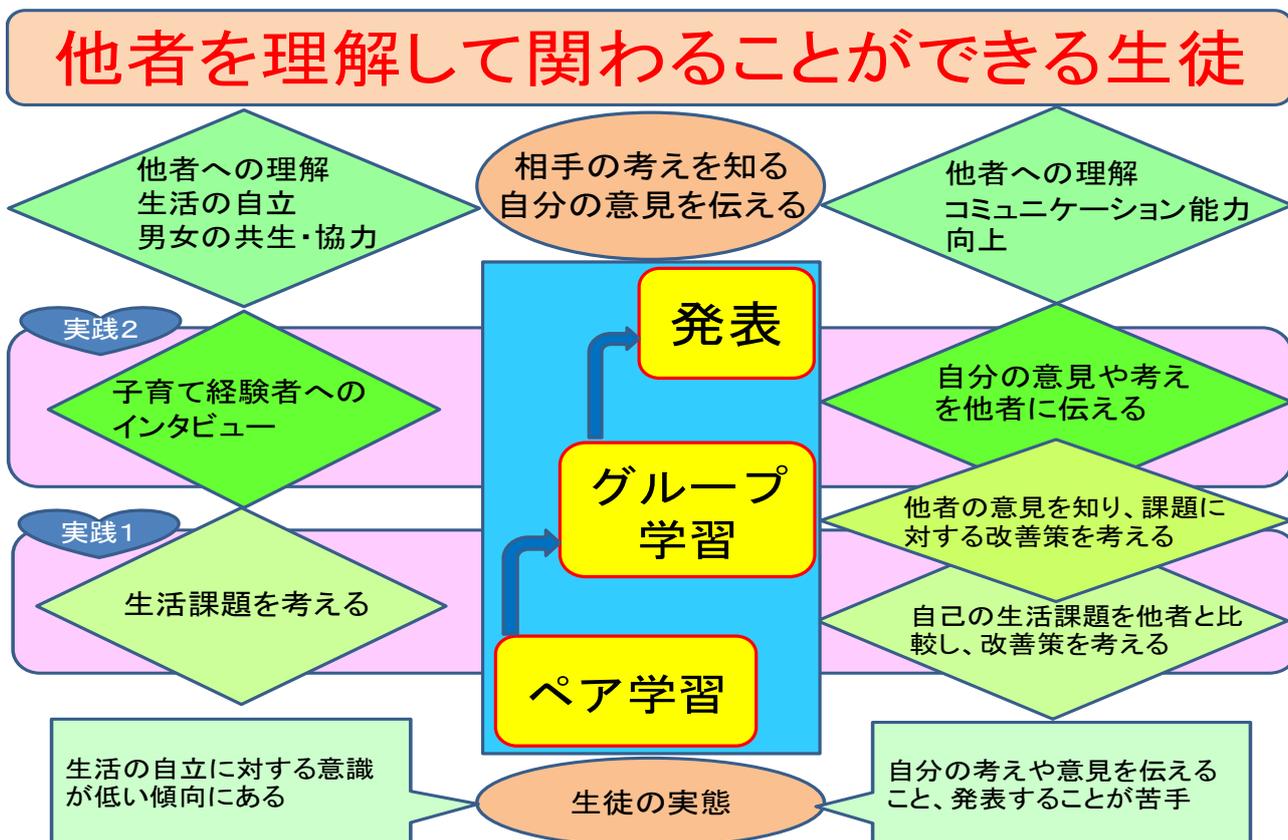
本校の生徒は、課題に対して自分の考えや感想をプリント等に記述することはできるが、自分から積極的に発表し、意見を伝えることは少ない。家庭科の学習に関するアンケートを実施したところ「クラスの前で自分の意見を発表すること」について、約60%が苦手と回答している。また「進んで家事をする」については、20%という低い回答率となり、自立に対する意識が低い傾向にある。

このような生徒の実態を踏まえ、家庭科の学習において自分の考えや意見を他者に伝え、他者の考えや意見と比較し、自分の考えを整理する活動を積極的に取り入れて他者理解を深めさせ、教科指導の目標である将来の自己の生き方・働き方と男女が協力して築く家庭や社会の重要性について気付かせたいと考えた。

本研究を通して、家庭科の指導において、相手の意見を聞き、自分の意見を相手に伝える力の向上をねらいとし、「コミュニケーション能力を高めるグループ学習の工夫」に取り組むこととした。グループ学習を手立てとして「他者の考えを認め、他者と関わる力」を高めたいと考え、本研究のテーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

授業において、生徒が自分の考えを積極的に伝えたり、意見を発表したりすることが少ないので実践1では、ペア学習による意見交流から始めた。ペア学習で互いの意見を比較・検討し、自分の考えをまとめグループ学習へとつなげて発表を行った。実践2では、学習の準備として事前調査（インタビュー）を取り入れ、身近な人との関わりを持つ活動から自分の考えや意見をまとめ、グループ学習、クラス全体で発表する学習活動を手立てとした。

これらの学習活動を通して、他者への理解を深めるとともに家庭科教育のねらいである多様な生き方や多様な考え方があることを生徒が学び取れるよう指導を行った。

### (1) 「自分らしい生き方と家族～生活時間を考える～」

〈授業実践1の手立て〉

- ①自己の生活から課題を捉え、改善策を考える場面の設定
  - ・ペア学習をもとに自己の生活課題について、比較・分類などを通して判断し、改善策を考える。
- ②考えを深める場面の設定
  - ・ペア学習からグループ学習に広げ、自分の意見と他者の意見をふまえて改善策を考える。

### (2) 「子どもと関わる～すこやかに育つ環境～」

〈授業実践2の手立て〉

- ①事前調査（インタビュー）と課題の把握
  - ・インタビューシートを活用して子育ての現状と課題を見付け、自己の考えをまとめる。
  - ・インタビューを通して他者とのつながりを理解する。
- ②改善策を考える場面と他者理解を深める場面の設定
  - ・意見交流やKJ法を取り入れたグループ学習を通して、他者の意見や考えを知り、課題に対する改善策を考える。
  - ・インタビューシートを通じた交流活動による他者とのつながり、自分と他者、他者と他者について理解する。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- ペア学習やグループ学習、クラスでの発表などの活動を取り入れたことで、自分の考えや意見を伝えることに対して苦手意識を持つ生徒が、意見交流や発表を行えるようになった。
- 他者との意見交流は、自分とは違う意見や見方を知る大きな機会となった。他者の意見を知ることによって、自己の生活や課題についても客観的に考える生徒が増えた。
- 生徒の実生活をもとに話し合ったり、子育ての課題を事前調査（インタビュー）で集約した意見や自分で感じたことをグループで意見交流し、他者の意見や考えを理解する活動を取り入れたことにより、家族や周囲の協力、支え合うことの大切さについて実感を持って認識させることができた。
- ペア学習やグループ学習の活動を重ねることで、学ぶことへの意欲とコミュニケーション能力が高まり、学習活動がスムーズになった。

### 2 課題

- クラス発表では、特定の生徒のみが説明や発表を行うこともあるので、グループごとに全員が話せるような指示を工夫する。
- いろいろな立場の意見が出せるよう、グループ編成について事前に検討する必要がある。そのため、事前にアンケートの実施や課題の提出等を行う。
- 単元の内容によってはプライベートなことも関連してくるので、個人の課題や家族の課題等、各校の生徒の実態に沿った質問事項や進め方を考える。
- 家庭科の学習内容には様々な分野があるので、各分野で効果的にグループ学習を取り入れていけるよう指導内容を工夫する。

## <授業実践>

### 実践 1

#### 1 単元（題材）名 「自分らしい生き方と家族」（第2学年・1学期）

#### 2 本単元（題材）及び本時について

生活を充実させるためには、自立した生活を営むための意志決定や男女が協力し家族の一員として役割を果たすこと、生活課題を主体的に解決して家庭生活をつくるとともに共に支え合うことの重要性を認識させることが必要となる。

本単元を通して、将来の働き方や男女が協力して築く社会や家庭について、自己の生活から課題を捉え、男女の働き方の特徴を把握するとともに男女共同参画の社会状況について考えさせる。また、生活時間の実態をもとに家庭生活の改善策についてグループで意見交流を行い、家族のあり方や役割、日本人の生活時間の実態、労働や余暇、男女の共生について主体的に考えさせたい。学習活動を通して、自分の考えと他者の意見を比較し、自己の生活や将来について意見を発表することで、他者を理解し共に支え合うことの大切さや家族・家庭の意義を理解することにつなげたい。

#### 3 授業の実際

##### (1) 自己の課題を捉える

自分の生活時間を調べ、特徴や課題を考えワークシートに記入する（図1）。

##### (2) ペア学習での意見交換

自分の生活時間の特徴や課題を伝え合い、互いの課題に対して自分の考えをアドバイスをする。

##### (3) 家族の課題を考える

家族の生活時間から課題を見つけ、課題の解決に向けた方策を検討する。

##### (4) グループによる意見交流

自分の意見を伝えるとともにグループの人たちの意見を聞きながらメモをとる。

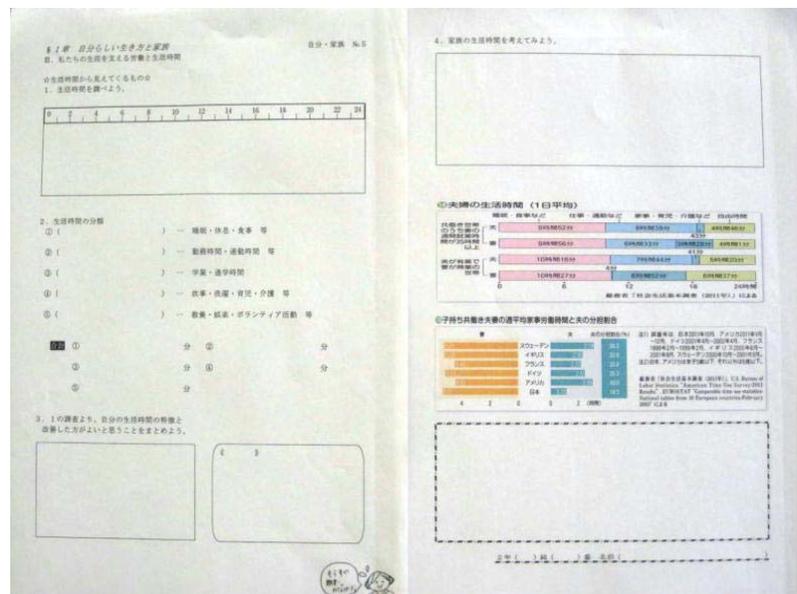


図1 ワークシート

#### <生徒の記述>

##### 自己の課題

- ・社会的・文化的生活を減らして、勉強の時間にした方がよい。
- ・家事労働時間がないので、休息の時間を家事労働時間にあてたい。
- ・帰宅時間が遅いが、家の手伝いをもっとする。時間を有効的に使いたい。
- ・自分の自由な時間は多くとれていると思う。その中で何をやるかが重要だと思う。
- ・ダラダラしないで時間を決めて生活すれば、睡眠時間を確保できると思う。



## ペアの相手へのアドバイス

- ・部活があり、帰宅が遅くなるのでテレビの時間を減らせば家庭学習の時間がとれると思う。
- ・携帯電話（スマートフォン）の使用やテレビを見る時間を減らせば、寝る時間が早くなる。
- ・時間の使い方が上手で、一日が充実している。

## グループでの意見交流

- ・家族で一緒にご飯を食べていていいなと思った。
- ・お母さんが家事の大半をしている家が多くて、まだ男女の仕事の割合が昔と変わらないのかと思った。
- ・役割分担がしっかりしている家もあり、参考にしたいと思った。
- ・毎日手伝いをしていてえらいと思った。気付いたら自分も家事をし、母親の負担を減らしていきたい。
- ・家族それぞれできることをすると、一人ひとりの負担が減ると思う。
- ・父母が協力してお弁当を作る、という話がありすごいと思った。



## 4 考察

- 自分の意見や考えを他者に伝えることをねらいとして行ったペア学習では、自分と同様の生活時間に共感し、学習に対して積極的に取り組む態度が見られた。また、自分とは異なる生活時間の使い方を知り、他者の生活から自己の生活改善を考えることによって、生徒の学習に対する意欲を喚起させることができた。さらに、ペア学習の相手にアドバイスをする活動では、多くの生徒が時間の活用の仕方について、良い点や改善点を伝えるなど、他者への関心から他者理解につなげることができた。

しかし、自分の考えや意見を伝えることを苦手とする生徒は、日常生活でコミュニケーションを取らない相手に意見やアドバイスを伝えることに負担を感じていたので、ペアの組み合わせや指示の仕方を工夫したい。

- 他者との関わりを深めることをねらいとして行ったグループ学習（図2）では、他者の意見を書きまとめさせることで、相手の意見をよく聞き、自分の考えと比較して、文章にまとめる活動につながった。他者の生活を知り、他者の意見に共感したり、関心したりする様子が見られ、疑問点について説明し合うなど、積極的に取り組む姿が見受けられた。また、他者の家族・家庭の状況や役割を知ることで、自己の生活改善を考えるきっかけとなった。グループで考える時間をもう少し与え、プリントに学習の理解度や感想、自分たちに何ができるかなどを記入させ、他者理解を深められるよう工夫・改善を図りたい。



図2 グループ学習

- 自己の生活を振り返らせることで、自分の生活時間について課題を考えることができた。また、ペア学習やグループ学習を通して、他者と関わりを持たせながら考えさせることで自分の課題を客観的に見ることができた。これらのことから、様々な生活課題に対応して自己の生活改善という視点で判断して意志決定することや協力して家庭をつくることの意義や重要性を認識させることができ、教科指導としての成果につなげることができた。

## 実践2

### 1 単元（題材）名 子どもと関わる

#### 2 本単元（題材）及び本時について

これから社会に出て行く生徒にとって、子どもを生き育てる親としての意識を持たせ、出産や育児に対する国・地方公共団体や企業等の支援対策について理解させ、育児活動や子育て支援について関心を持たせることは、社会人としての自立の基礎を養うことにつながる。

本単元では、乳幼児の心身の発達と生活について基本的な知識を理解させ、親の役割について考えようとする主体的態度の育成を目指す。さらに、子どもがすこやかに育つ環境について理解させ、子どもを生き育てることの意義を考えさせ、子どもの発達に必要な親や家族及び地域社会の果たす役割について認識させる。子どもがすこやかに育つ環境を理解し、働くことと出産・育児について考え、将来への自立に対する意識と他者とのコミュニケーション能力の向上を学習のねらいとして設定した。また、男女のワークライフバランスに対する理解を深めるためにグループ学習を取り入れ、自分の考えと他者の意見を比較し、他者を理解し共に支え合うことの大切さを理解させる。自己の生活や将来について意見を交流し、自分の考えを発表し合うことで他者と関わる力を高めたい。

#### 3 授業の実際

##### (1) インタビューシート（図3）の作成

本授業を行うにあたり、生徒にインタビューシートの作成を事前の課題として与えた。生徒一人一人が身近な子育ての経験者に、子育てを振り返っての喜びや困難についてインタビューを行い、感じたことや自分の考えをまとめる。

##### (2) 意見交流

インタビューを行って感じたことや考えたことをグループで意見交流する。

##### (3) インタビューシートから子育てについて課題と改善策を考える

- ①「子育てをして嬉しかったこと」、「楽しかったこと」をインタビューシートをもとに付箋に記入し模造紙に貼る（図4）。
- ②「子育てをして大変だったこと」や「困難に感じたこと」を付箋に記入し、模造紙に貼る。
- ③ 模造紙に貼った付箋紙を共通の課題や意見でまとめ、まとまりごとにタイトルを付ける（図5）。
- ④グループごとに意見をまとめ、クラスで発表する。

共通質問事項	インタビュー記録
① 自分の子どもを初めて抱いたときほどどのように感じましたか。	
② 子育てを振り返って楽しかったこと、うれしかったことは何ですか？	
③ 子育てを振り返ってつらかったこと、大変だったことは何ですか？	
④ 保育園や幼稚園に連れて行った人は誰ですか？	
⑤ 子育てで特に心が付いたこと、実行したことは何ですか？	
⑥ 仕事と子育ての両立は大変でしたか？ 「はい」と答えた人 何が大変でしたか？ ※どのような援助やサポートがあればよいと思いましたか。	
⑦ 子育てを経験することによりあなた自身は変わりましたか？（自分の生活習慣や考え方など）	
⑧ (自分で考えた質問事項)	
⑨ (自分で考えた質問事項)	
(インタビューをしての感想)	

図3 インタビューシート



図4 生徒の活動



図5 まとめ

## 〈生徒の記述〉

### インタビューを行った感想

- ・ 普段の会話や家族で出かけることなど、何気ないことにも親が喜びを感じていることを初めて知り、驚いた。これからはもっと家族との時間を大切にしたいと思った。
- ・ どんなに忙しくても大変でも、親は私たちが大切にしてくれているということに改めて気付かされた。今は親とギクシャクしてしまうことも多いけど、それでもこんなに大切にしてくれる両親を傷つけないようにしたいと思った。
- ・ 自分の知らないところで、親はすごく頑張ってくれていたのだと分かった。
- ・ インタビューは恥ずかしかったけど、普段ではなかなか聞くことができないので聞いて良かった。
- ・ 少し恥ずかしかったけど、普段ではしない会話ができて貴重な時間だった。

### グループ学習に関する記述

- ・ 人任せにしていたら、話し合いは全く進まないとわかった。自分から進んで動くことが大事だと思った。
- ・ 一人で学習するよりも皆で学習することによって、いろいろな意見が聞けた。自分が気付かなかったこともたくさんあった。
- ・ 意見を出し合うことの楽しさに改めて気付いた。同じ意見に全員で持っていかななくても良いということに気付いた「答えや考えはたくさんある！」。
- ・ 一人だと難しい発表も4人でまとまってすることで緊張せずにできた。

### コミュニケーションに関する記述

- ・ 普段話さない人と話してみた。案外楽しくて、こんな私に話しかけてくれてとてもうれしかった。
- ・ 他の人の意見を知ることができたので良かった。また、普段はあまり話さない人と話す機会ができてよかった。

### 他者理解に関する記述

- ・ グループによって分け方が違い、おもしろかった。見る視点が違う人もいて「なるほどな」と思った。
- ・ 家族によって兄弟の数も違うし、それぞれ違った課題があるのだと分かった。
- ・ どの家庭も大変だったことや嬉しかったことがあり、似ている点もあると感じた。なかなか他の家庭を知る機会もないので、話を聞いていて楽しかった。

## 4 考察

- 事前に身近な子育て経験者にインタビューをすることで、生徒が自分自身に関わる課題として捉え、学習課題の解決に向け意見交流に対して積極的に取り組んだ。事前調査として取り入れたインタビューでは母親へのインタビューが多かった。日常生活において、あまり家族と話さなかったり、話す時間が少なかったりする生徒にとっては、家族とのコミュニケーションをとる貴重な時間となった。
- 家族以外の身近な大人にインタビューをした生徒は、相手に対する気遣いや言葉遣いなどの配慮から緊張感を持った活動となったが、子育てについて知るだけでなく、他者との関わりから他者への理解を深める機会となった。
- 授業後のアンケート結果において、生徒の約90%が「自分とは異なる家族構成や生活の違いによって様々な考えや状況があるということを知ることができた」と記述している。グループ学習が他者の考えや意見を知るとともに、他者理解の大切さと生活の自立、男女の共生・協力を理解させることにつながった。また、課題をまとめる作業では、お互いに意見を出し合いながらインタビューシートや模造紙を作成する中で、他者の意見を認めようとする姿や他者と関わろうとする姿が見られた。
- グループ編成について、生徒がインタビューをした相手や育てた子どもの人数等を考慮して行ったため、自分と異なる意見に対して興味を持って聞く生徒が多く見られた。活動がスムーズに進む班が多く、グループ学習に対する意欲が高まった。
- 子育ての現状を自ら進んで調査し課題を見付けることによって、子どもがすこやかに育つ環境を主体的に考えるとともに、自分の意見を伝えるコミュニケーション能力の向上と他者の考えを知り、他者と関わることの大切さを実感を持って理解させることができた。